



## 科学的植物療法学講座開設のお知らせ

植物療法 (phytotherapie, フィトセラピー) は、主に素地と呼ばれる身体の状態を健康にし、病気の予防に貢献するための療法で、フランスでは正式に認められており、薬剤師が積極的に関与しています。しかし、科学的には余り考慮されておらず、経験的なものとしてこれまで認められてきました。しかしながら、昨年1月にフランスで出版された『適正なる植物療法』という本をよんでみると、フランスですら、「植物療法を科学的に検証されたものにしよう！」と言う動きがあることがわかりました。従って本講座では、**科学的に検証された**植物療法学をわかりやすく、皆様方にお伝えしたいと考えております。

特に演者永井は、大阪大学を定年退職後に、体温、血糖、血圧や免疫等の健康維持に重要な役割を果たす自律神経活動の変化の測定から、食品、薬品などの機能を明らかにする受託試験を行っており、この方法で、植物（ハーブ）の機能を明らかにする事が出来るので、この方法での最新のデータも入れて解説したいと考えております。

受講希望の方はsoumuka@anbas.co.jpまでメールをお願いします。

件名に植物療法学講座受講希望とお書き下さい。

講師 永井克也 （大阪大学名誉教授／株式会社ANBAS）

### 講師紹介

永井克也

1967年大阪大学医学部卒業（1968年医師免許取得）、1972年大阪大学大学院医学研究科修了（医学博士）後、愛媛大学医学部助教授、大阪大学蛋白質研究所助教授を経て、1995年大阪大学蛋白質研究所教授、2000～2004年大阪大学蛋白質研究所所長、2006年定年退職。2007年株式会社ANBAS設立

当社の永井は大阪大学在職中から、精油の香りによる匂い刺激効果 [Aromatherapie (アロマセラピー) の効果] について研究して参りました。最初、アロマセラピーは宗教か偽薬効果（プラセボー効果）だと思っていたアロマ精油の効果が、動物実験で生まれつき持つ匂いに対する反応である事を明らかにしました。即ち、グレープフルーツ精油の香りによる匂い刺激は食欲を抑制し、血糖・血圧や体温を上昇させ、脂肪を分解する作用を持ち、反対に、ラベンダー精油の香りによる匂い刺激は食欲を促進し、血糖・血圧



や体温を低下させ、脂肪分解を抑制する効果を持つ事を科学的に明らかにしました。

(2010年 雑誌『香料』平成22年6月 246巻：31頁～ 掲載)

それらの研究により、アロマテラピー（芳香療法）が植物療法の延長線上にあることに気がきました。そのため、植物療法について勉強したところ、植物療法について科学的に研究すればすばらしい成果が期待されることに気がきました。事実、今日の医薬の40%程が植物由来のものであるのです。

幸い、当社では動物の臓器（肝臓、胃、腎臓など）や組織（脂肪、筋肉、血管など）を支配する自律神経活動を直接測定することが出来るので、この方法を用いてハーブの機能を明らかにする植物療法についても研究しようと思っております。

本講座は初歩の植物療法学を学ぶ、またとない機会です。ご興味がおありの方は奮ってご参加ください。

#### 講座概要

開設時期：2013年11月より、毎月第2火曜日 午前10時～（90分間）

場所：大阪市北区豊崎4丁目12-10 昭和設計ビル3階 株式会社ANBAS内

受講料：一回3千円+テキスト代（一回当たり500円程度）

講義は10回を1単位とし、10回すべての講座を受講された方には終了時に認定証を贈呈いたします。

#### 講座内容

1回目	植物療法学とは？
2回目	植物療法の効果、神経性障害に対して
3回目	植物療法の効果、感染性障害に対して
4回目	植物療法の効果、消化機能障害に対して
5回目	植物療法の効果、内分泌障害と代謝疾患に対して
6回目	植物療法の効果、皮膚疾患に対して
7回目	植物療法の効果、女性に特有な障害に対して
8回目	アロマテラピーとは？
9回目	アロマテラピー、グレープフルーツとラベンダー精油の効果
10回目	植物療法の実際